**説教20240505三ヨハネ、ヨハネ21：20-25「うわさと真実」**

 **今日の説教題はうわさと真実ですが、先ず、うわさから。**

**牧師の間でも、噂話が大好きな方々がおられます。**

**噂話とは一体何なのでしょうか。噂の話と言うのは、本人がいないところで、こそこそと隠れて、確かでないことが話されて、その話題が口伝に人から人へと伝わっていくような話です。噂話と言うのは、大概、人の悪口になり、大ぴらに言えないような隠微な内容にまとまっていくのです。**

**そうは言いましても、良い噂と言うことも確かにあるではないかと思われるかも知れません。確かに、聖書にも、イエス様に関する、素晴らしく良い噂があったことが記されています。**

**ルカ福音書4章 36節より**

**人々は皆驚いて、互いに言った。「この言葉はいったい何だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じると、出て行くとは。」こうして、イエスのうわさは、辺り一帯に広まった。**

**このように、イエス様が旅する先々で、奇跡の業をされたので、イエス様の噂は、人々の口伝に、あたり一帯に広まったのでした。しかし、良い噂と言うのは、時を置かずして、うわさでなくなります。つまり、最早、人々がそのことを、こそこそと隠れて話すことはなくなり、その内容は、確かな事へとかたまり、人々は、イエス様本人に会いたいということになったのでした。イエス様に直接お会いして、自分も癒されたいという訳です。**

**興味深いことに、あの悪いヘロデ王でさえ、イエスに会ってみたいと思った、と聖書には記されています。**

**この様に良い噂と言うのは、良いことが、進んで行って、遂には、噂が噂でなくなるのです。噂が噂でなくなって、真実になるのです。**

**ああなるほど、と思われたかもしれませんが、聖書には、このことがもっとはっきりとくっきりと語られています。今日の聖書箇所にも出て来ます、真実、真理という語句のもとのギリシャ語はアレセイアという語句です。アレセイアと言うのは、隠されていたことに光が当てられて明るみに出されるという意味です。聖書の最後にあるヨハネ黙示録も、同じように、最後にキリストの光によって、全てのことが明らかになるという事ですから、真実、真理というのは、キリストの光によって示される事実という事であります。**

**ですから、イエス様がそこに居られるような、明るくて良いうわさ話は、すぐに明らかになって公然と語られるようになり、真実、真理へと移っていくのです。**

**反対に、イエス様がそこに居られないような、暗くて悪いうわさ話は、いつまでも隠されて、確かでないことが確かでないまま、本人の居ないところで延々と人から人へと伝えられていくのです。**

**このように、噂話が多いところ、蔓延している処では、悪いことが進んで行っています。ですから、私たちはそんな場所に出くわしたならば、充分注意をして、そのうわさ話に参加しないように気を付けた方が良いでしょう。**

**では、今日のヨハネ福音書から見て参りましょう。ヨハネ福音書も今日で最後のページになります。今日の御言葉は「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい」であります。何か、分かったような分からないような御言葉で、物足りないなあと思われる方も多いのではないでしょうか。実は私も最初そう思っていましたが、黙想を続けるうちに、このイエス様の御言葉の深みが分かり、この御言葉が最後に置かれている訳も分かってきました。**

**先ず、この御言葉自体を見ていきましょう。先ず、「彼が生きていることを」の生きている、の意味は、イエス様につながっている、その愛に留まっているという意味です。そして「あなたに何の関係があるか」と言うのは、あなたには関係がないことです、という意味の反語で、もっと砕けた言い方をすれば、あなたにとってそれが何か、と言った突き放した物言いなのです。以上を加味してこの御言葉を語ってみますと次の様になります。**

**わたしが来るときまで、彼が私につながっていることを、わたしが望んだとしても、それがあなたにとって何か。。。あなたは、わたしに従いなさい**

**元のギリシャ語では、イエス様はこんな風に会話調で話しておられるのです。**

**では次に、何でイエス様はペトロに対してこんな風に言ったのかを見て参りましょう。**

**今日の福音書は、噂好きのペトロによって語り始められます。ペトロは、イエスの愛しておられた弟子ヨハネがついて来るのを見て、裏切り者のユダのことを想い起しています。**

**そして、ペトロはそのヨハネを見ながら、イエス様に向かって「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言ったのでした。つまりこの時ペトロは、イエス様に対してヨハネに関する噂話を仕掛けたと言ってよいでしょう。この時のペトロの物言いをギリシャ語に即して表現しますと「この人はどうなの」となります。**

**いつも羽目を外してしまうペトロらしいとも言えますが、やはり本人には聞こえないように「この人はどうなの」と、他の人に問いかけるのは、罪作りだなあと思われるのではないでしょうか。**

**イエス様と言うのは、光よりの光ですから、当然、最初から、噂話に加わるお方ではありません。この時も、ペトロの振りを、たちどころに振り払われたのでした。イエス様と言うお方は、絶対にうわさ話に最初から参加されないお方であります。なぜならば、皆さんもご存知のように、イエス様は、いつも皆さんの真ん中に立って、皆さんお一人お一人と直接向き合うお方だからです。**

**私たちは、このペトロの様に、イエス様に、ある人のことを問いかけないようにしたいものです。その代わり、私たちは、主イエスに向かって、とりなしの祈りをささげるのです。主よ、この人を御心のままに祝福の内に守り導いて下さいと。**

**しかし、その後の事の成り行きは、この弟子ヨハネは死なないといううわさが兄弟たちの間に広まったのでした。兄弟たちは、イエス様の御言葉を自分なりに解釈して、不確かなまま人に伝えて、遂には、この弟子ヨハネは死なないという言葉になって、兄弟たちの間に広まったのでした。私たちは、この噂話がいつまでも、こそこそと隠れて続けられる時、そこに、悪が進んでいくことを予感するのではないでしょうか。例えば、兄弟の間で、彼は死ぬけれど私は死なないと言った言い争いが起こってしまうことも想定できます。**

**このように、教会の始まりの時点から、ペトロやヨハネ達の間で、噂話がされていたという事で、やれやれという思いも致しますが、それを思うと、今の牧師たちの間でも、噂話が大好きな方々がおられるという事も、或る意味、仕方がないことなのかもしれません。**

**話がそれましたが、それで、ヨハネ福音書はどう締めくくられているかと言いますと、噂の本人のヨハネ自身が、イエス様の御言葉をそのまま忠実に繰り返すことによって終えられるのです。ヨハネは、イエス様の御言葉に忠実に立ち帰ることによって、自分自身も救われ、悪に進んでいた噂の現場をも、イエス様の御言葉の光を照らすことによって救ったのでした。**

**私たちは、ヨハネ福音書の最後で、イエス様の御言葉が、将に光よりの光であり、悪を食い止め、私たちを光のほうへと方向転換させる力を持っていることを知らされるのです。**

**そして、御言葉は、直接、私たち一人ひとりと向き合ってくださいます。イエス様はペトロとヨハネに与えられた性格や賜物の違いも全部知っておられます。ですから、きちんとペトロのことと、ヨハネのこととを区別して、語っておられるのです。ヨハネは私に留まっていなさい。ペトロは私に従いなさい、と言うように。**

**私たちは、隣り人の為にとりなして祈りつつ、イエス様の御言葉を忠実に受け取って、その通りに行っていくことによって、一人ひとりが、それぞれの性格や賜物を明らかにされて生かされて、豊かに祝福されて用いられることが出来ます。**

**イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書くならば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろうと、福音書は締めくくられますが、この豊かさを実現するのはイエス様ご自身であります。しかし、私たち人間がいつまでも、噂話の、誘惑に満ちた心地よさにハマっているとしたら、それは大変危険な事であり、それはイエス様からの恵みを拒むことであるということを自覚しなければなりません。**

**今の世の中は、どう見ても、噂話のほうが、真実の話よりも多い時代に思えます。私たちが伝え聞く話は、いつまでもうわさ話に留まっていて、それが真実の話に移っていくことは少ないのです。**

**一方、私たちは、今日のヨハネの手紙を読んでいて、この手紙が書かれた時代が、真実と真理に満ち溢れた時代であったのだと推察できます。そして、こんな時代に居ることが出来ればなあと、うらやましさも感じるのではないでしょうか。**

**真理に歩んでいるとはどういう事でしょうか。それはキリストの光に照らされて歩んでいるという事です。真理のために共に働くとは、キリストの光を輝かすために共に働くという事です。**

**この様に、時代にキリストの光が満ち溢れる時、私たちは平和であり、親しくされます。そして、この手紙には、一人ディオトレフェスという、いわば悪い人のことが記されていますが、この人が抱えている悪も、キリストの光によってやがて善へと変えられるのだ、という事が簡単に想像できるのです。**

**今日は、花の日礼拝としてお捧げしています。ヨハネの手紙には、**

**それよりも、近いうちにお目にかかって親しく話し合いたいものです。あなたに平和があるように、と記されています。**

**復活の主イエスは、時代が良かろうと悪かろうと、いつも私たち一人ひとりに出会って下さいます。私たちも自分の心と体を用いて、平和を告げ知らせる使者として、隣人たちの御宅に訪問をしたいと願うものであります。**

**祈り**

**主よ、私たちは、噂話によって、気持ちを高ぶらせ、あなたの道を外れ、真理に歩めなくされます。どうか憐れな私たちをお赦し下さい。常にあなたが私たちの真ん中に居られ、わたしたちが、真理のために共に働くことが出来ますように導いて下さい。**

**どうか、あなたが私たちの口を開き、噂話ではなく、あなたの福音を語る者たちとして下さい。使徒ヨハネが、福音書の最後で、忠実に御言葉を語り、あなたのみ旨を行ったように、私たちも御子イエスのなさった沢山のことにあずかっていくことが出来ますように。**